

Introduction to Chinese Ceramics

コレクション展

中国陶磁 勉強会

2016年

9月15日(木)

10月23日(日)

〔休館日〕 毎週月曜日、ただし9/19(月・祝)、10/10(月・祝)は
開館し、翌9/20(火)、10/11(火)は休館

「中国陶磁」と聞いて、みなさんはどのようなものを思い浮かべますか？

8000年あまりに及ぶ中国の長い歴史のなかで、広大な国土の各地で焼かれた陶磁器は、作られた時代によって姿や形、色彩や文様に様々な違いがあります。日本には、鎌倉時代以降に日本人の美意識で選ばれた中国陶磁のジャンル「唐物^{からもの}」が存在し、長く愛されてきました。

このたびの展覧会では、古代から清時代までの中国陶磁の歴史的展開を学ぶコーナーと、「唐物」としての中国陶磁のコーナーにわけ、重要文化財4件を含む約90件の作品を展示いたします。新石器時代から漢時代までの古代の陶磁器には、幾つかの特別出品を加えて近年の研究の成果を学ぶ機会とし、また「唐物」のコーナーでは鎌倉時代に渡来した茶壺をはじめ、砧青磁の花生や天目茶碗、茶入、香合など、日本において大切にされた作品をご覧ください。中国陶磁の世界を楽しく学んで頂ければ幸いです。

「唐物^{からもの}」の
魅力とは



根津美術館
NEZUMUSEUM



中国陶磁勉強会

新石器時代の土器、殷周戦国時代の灰陶、漢時代の緑釉陶器、晋時代の越州青磁、唐時代の三彩陶器、宋時代の白磁、青磁、天目、元時代の青花、明時代の五彩や金襴手、清時代の単色釉磁器など中国陶磁器の諸相を学びましょう。



りよくゆうてんかもんおつぽ
緑釉貼花文大壺
1口 施釉陶器
中国・隋時代 6-7世紀
根津美術館蔵

大きく膨らんだ胴には、花と天女を象った型抜き文様が貼り付けられ、緑釉が掛かる。西域の影響が感じられる意匠である。

せいかりゆうほうもんへい
青花龍鳳文瓶
1口 白磁
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

「青花」とは中国では青い文様を意味し、日本では「染付」と称する。器の表を様々な文様で描きつめる独特の意匠が特徴。



さんさいつぽ
三彩壺
1口 施釉陶器
中国・唐時代 8世紀
根津美術館蔵

華やかさと美しさに溢れる「万年壺」と呼ばれる壺である。格子状に置かれた菱形文にほどこされる三彩釉は流れて滲んでいる。

たんちゃゆうさんかもんわん
淡茶釉三果文碗
1口 白磁
中国・清時代 18世紀
根津美術館蔵

清時代には、色とりどりの色調の釉薬が作られた。この淡い茶色の釉は類例が少なく、欧米では「カフェオレ釉」と称している。



からもの
唐物とは
室町時代頃から日本で高い賞翫を得た中国の文物。宋・元・明時代の茶壺、茶入、天目、花生などが主な作品です。

重要美術品 曜変天目茶碗
1口 施釉陶器
中国・南宋時代 12-13世紀 根津美術館蔵

16世紀初め頃すでに、曜変は最高に美しい碗とされていた。この碗は、江戸時代に加賀前田家が「曜変」の中に加えた茶碗。



かつゆうちゃつぽ しこくさる
褐釉茶壺 銘四国猿 大名物
1口 施釉陶器
中国・南宋～元時代 13-14世紀 根津美術館蔵

四耳が付いた大きな壺は、日本人の美意識が発見した中国陶磁器。「唐物道具」として大切にされ、姿や釉調の微妙な変化を賞翫してきた。



せいじたけのこはないけ
重要文化財 青磁筍花生 大名物
1口 施釉陶器
中国・南宋時代 12-13世紀 根津美術館蔵

伸びやかな姿と釉色が美しい瓶は、空を想わせる色の青磁で、日本人は「砧青磁」と称した。今や「砧」は世界語になっている。



同時開催

◎「唐物」の魅力をお楽しみください。

展示室2 国宝 漁村夕照図

禅僧画家・牧谿の筆になる国宝「漁村夕照図」を中心に、中世に「唐絵」とよばれて賞翫された中国絵画を厳選してご覧いただきます。



国宝 漁村夕照図 牧谿筆 1幅 紙本墨画 中国・南宋時代 13世紀 根津美術館蔵

夕闇迫る漁村の風景を、水墨技法を駆使して描いた一幅。3代将軍足利義満が巻物の「瀟湘八景図」を切断し、座敷を飾る掛幅とした。



重要文化財
風雨山水図 伝夏珪筆
1幅 紙本墨画
中国・南宋時代
13世紀
根津美術館蔵

強い風に吹かれる木々の下、傘をかざす人物が橋を渡る。対角線構図による南宋の院体山水画である。6代将軍足利義教が愛蔵した。

展示室5 中国の漆器

宋時代以降の中国漆器は、わが国では「唐物漆器」とよばれ珍重されました。螺鈿や彫漆、無文漆器など多彩な技法の作品をご覧ください。



くろうるしりんかわん
黒漆輪花椀
2口 木胎漆塗
中国・北宋時代
10-12世紀
根津美術館蔵
永田牧子氏寄贈

五弁の花が開いたような形の黒漆塗の椀。一切の装飾がない漆黒の椀は、フォルムの端正な美しさが一層際立ってみえる。



ついこくぐりもんごうす
堆黒屈輪文合子
1合 木胎漆塗
中国・南宋時代
12-13世紀
根津美術館蔵
永田牧子氏寄贈

漆を何層も塗り重ね、文様を浮彫りした彫漆の合子。丸みのある雲のような文様は、わが国では屈輪文とよばれ親しまれた。

展示室6 名残の茶会

一年間楽しんだ前年の茶葉や、初夏より慣れ親しんだ風炉は10月で使い納め。その名残を惜しみ、この時期は寂びた茶道具を取り合わせます。



りきゅうごのみよほう
利休好四方広口釜
京都
1口 鉄
日本・江戸時代
18-19世紀
根津美術館蔵

『新古今和歌集』所載の「見わたせば花も紅葉もなかりけり うらのとまやの秋のゆふ暮」の一首が胴部にあらわされた四方の釜。



重要美術品
色絵武蔵野図茶碗
野々村仁清作
1口 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

満月の下で風にそよぐ芒が描かれた茶碗。胴部にある大きな繕いにより、華やかな意匠のなかにも寂びた風情がみうけられる。

関連プログラム

スライド レクチャー	9月23日(金)「中国の漆器」	多比羅 菜美子 (根津美術館 学芸員)
	10月 7日(金)「中国陶磁勉強会」	西田 宏子 (根津美術館 顧問)
	10月21日(金)	” ”

- * 各回とも午後1時30分より45分間程度、開始の15分前より開場します。根津美術館 講堂(定員130名)
- * 展示内容について学芸員がスライドを用いて解説します。
- * 事前申し込みは不要。聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別講座 「中国陶磁と漆器を楽しく勉強する会」

- ・9月17日(土) 「土器から唐三彩へ」 弓場紀知氏(石洞美術館 館長)
- ・9月24日(土) 「東大構内から出土したやきもの」 堀内秀樹氏(東京大学埋蔵文化財調査室 准教授)
- ・10月 1日(土) 「中国漆器の不思議」 松本達弥氏(漆芸作家・漆芸文化財修復家)
- ・10月 8日(土) 「色絵磁器のいろいろ」 矢島律子氏(町田市立博物館 学芸員)
- ・10月22日(土) 「世界を魅了した染付」 長谷川祥子氏(静嘉堂文庫美術館 主任学芸員)

- * 開催時間はいずれも午後2時～3時30分 各回定員40名 参加費 2,000円 事前申し込みが必要。
- * 詳細は決まり次第当館HP、本催事チラシにてお知らせします。

開催概要

展覧会名	コレクション展「中国陶磁勉強会」
主 催	根津美術館
開催期間	2016年9月15日(木)～10月23日(日)
開館時間	午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
休 館 日	毎週月曜日、ただし9/19(月・祝)と10/10(月・祝)は開館し、翌9/20(火)と10/11(火)は休館。
入 館 料	一般1100円(900円) 学生800円(600円) ()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
前 売 券	一般900円 学生600円 ※2016年7月23日(土)～9月4日(日)「はじめての古美術鑑賞」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
ア ク セ ス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
住 所	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
お問合せ	TEL 03-3400-2536 (代表) http://www.nezu-muse.or.jp

次回展



重要文化財 藤花園屏風(左隻) 円山応挙筆 日本・江戸時代 安永5年(1776) 根津美術館蔵

開館75周年記念特別展 円山応挙

2016年

11月3日(木・祝)～12月18日(日)

写生と装飾を融合して独自の画風を築いた、円山応挙の斬新な美しさをご堪能いただけます。

リリース・広報のお問合せ

担当： 所、村岡、羽田 Tel. 03-3400-2538 (直) Fax. 03-3400-2436 E-mail. press@nezu-muse.or.jp